

## 資料紹介

## 海外の最近の諸研究

井 桁 貞 敏

海外の学術雑誌ではその半分を書評にあててあるものが少ない。最近の例で見ると、Revue des Études Slaves, Tome 50, fasc. 2, 1977 では次のように分類して最近のスラヴ語学・ロシア文学の研究3898編を短評と共に紹介してあるので、世界でどのような研究が行なわれているかを概観することができる：スラヴ語学（一般、音声学、音韻論、形態音韻論、形態と範疇の価値と用法、シンタクス、語彙論、方言学、標準語、意味論、数学言語学、応用言語学、心理言語学、社会言語学、言語理論）、文学・思想史・芸術史（参考書、著作集、ロシア文学史概論、文学の運動と流派、文学の理論とジャンル、雑誌、評論、文学生活、芸術生活、回想、文芸批評、文芸学、比較文学、地方文学、民衆文学、思想史、芸術史、作家研究）。

本誌でも、各専門家が分担して、毎年世界の主な著書論文数十編を紹介し、世界の学界の趨勢をうかがわせるようにすべきであると思う。本稿はこの趣旨によってなるべく多くの研究を紹介してみた（ただし紙数が限られているのでロシア語学の分野のごく一部に限定）。

Н. С. Авилова. Вид глагола и семантика глагольного слова. «Наука», М. 1976.

本書は体と動詞の意味との関係を詳しく研究したもので、動詞の意味のタイプを分けている。著者は体を語形変化の文法範疇とは認め難いとし、体の対は種々の体の動詞または多意味の動詞の個々の意味の対立関係から成るとし、体は動詞の語形変化の外に立つ特別な文法範疇であるとしている。

体の対を持たぬ動詞があるが、どういう意味の動詞が体の対を持たぬかを詳しく研究している。

また体と動態（способы глагольного действия, Aktionsarten）との関係にも考察を加え、動態を時間的（始動的、限定的、終結的）、量的（一回的、多回的）、特別結果的（限界的、完了的、強度的、集積的、配分的）に分類して

いる。

Willy Birkenmaier, Die Funktion von один im Russischen, Zeitschrift für slavische Philologie, Bd. xxxix, Heft I, Heidelberg, 1976.

Один は一定の文脈では量的意味のほかにドイツ語の不定冠詞と同じ役割をする。一般化に対する個別化の役をしている。история одной любви ‘ある恋の歴史’ から одной を除けば愛(恋)一般の歴史の意味になる。科学論文の表題には один がよく使われる：Критические заметки об одной реакционной философии ‘ある反動哲学についての批判的手記’。

Один のない生格と名詞の結んだものはドイツ語の合成語に当る：Но это уже вопрос не журналиста, это вопрос оратора は Aber das ist schon keine Journalistenfrage mehr, das ist eine Rednerfrage に当る。個別的に言うなら вопрос одного журналиста である。

始めて話題にする人や物には один をつける。文頭では один が必要である。その前に副詞や時・場所を示す語があっても同様。話し手(書き手)だけが知っている人・物が話題であることを明らかにするには один を要する。お伽話やそれをまねた物語でよく使われる。

ロシア語の один は英独語では簡単に言い分け難い微妙な別を言い分け得る。Она хочет выйти замуж за одного человека с тугим бумажником. ‘彼女は嫁に行こうとしているが相手は金持だ’。Она хочет выйти замуж за человека с тутим бумажником. 彼女は金持に嫁ぎたがっている(英語では両方とも She wants to marry a man with a big bank account)。

Один は英独語の不定冠詞ほど使われないがこれはロシア語に不定代名詞があるからである。英語では a Mr. Brown, a certain Mr. Brown という言い方がある。これは話し手には分っているがまだ明示しないのである。これがロシア語の один に当る。不定代名詞のうち кое- のつくものは話手には分っているがあえて言わないでおく時にも用いる。その他の不定代名詞は話手自身にも不明な時に使う。кое- は一個でなく、あれこれである。それ故 кое- と один は話手だけが知っている点では共通だが кое- は単数でない点がちがう。один は кое- の単数であるといえる。

複数 кое-кто / 単数 один человек

複数 кое-что / 単数 одно дело, одна вещь

ドイツ語では eine Stadt としか言えぬところを Какой-то (какой-нибудь,

какой-либо, один) город と意味の微妙な別を以て言いかえうる。学問や行政の方面で使われる некий も考慮すれば один の使われる領域は更に狭くなる。

ドイツ語などの不定冠詞は定冠詞との関係で意味が決まるのだが、один は不定代名詞の列の中で占める位置や、物主形容詞・関係形容詞に対する関係できまる、とする：профессорская дочь—дочь профессора—дочь одного профессора.

Б. А. Ларин, Лекции по истории литературного языка (X—середина XVIII вв.). “Высшая школа”, М. 1975.

著者がレニングラード大学で1945—1950, 1950—1951に行なった講義を弟子や友人がまとめた本。キエフロシア期のロシア標準語の形成と発達の初期（9—11世紀）、キエフロシアの標準語の諸タイプ（11—13世紀）、モスクワロシアの標準語の諸タイプ（14—17世紀）、18世紀前半のロシア標準語の4部に分かれている。

著者は標準語とロシア社会の種々の発達段階の一般民衆語との相互作用を明らかにするのが標準語の歴史の課題であるとし、また文体論的発達に特に注意を払っている。

著者は古代ルーシのロシア標準語の複雑な組織を解明し、ロシア語の口語・事務語と文語・教会語を詳しく分析して、古代ロシア文学の主なジャンルの言語がロシア標準語の形成にどれほどあずかっているかを検討している。当時の条約文は基本的にはロシア語であるとしている。なお著者は若干の語源説を述べているがあまり成功していない。

著者は“Слово о полку Игореве”について、その語彙をもっとよく研究すべきであるとし、多数の語彙的・文体的材料を提供している。また年代記にはキエフの共通語、教会スラヴ語、方言の三層が反映しているとする。モスクワ・ロシア語の特徴は話し言葉が文語へ入ったことであるとする。

本書はロシア社会の史的発達の種々の段階で社会・地域・文体の分化中においてロシア標準語が成立して行く過程を生き生きと描き出している。

О. А. Лаптева. Русский разговорный синтаксис, “Наука”, М. 1976.

本書はロシア語の話し言葉のシンタクスを研究したもので、2部に分ち、第1部では話し言葉の機能を、第2部では構造を研究しているが、400ページに

近い詳しい研究であり話し言葉に見られる類型を詳述している。

Т. М. Николаева. Фразовая интонация славянских языков, “Наука”, М. 1977.

各スラヴ語における句の音調の型を詳しく研究し、その異同を検討したものである。平叙文、疑問文、感嘆文などにおける音調を実例からよく研究している。こういう研究が盛んに行なわれることを希望する。

Winfred P. Lehmann, Proto-European Syntax, University of Texas Press, Austin and London, 1974.

本書は The Syntactic Framework, The Syntax of Simple Sentences, Nominal Modifiers, Verbal Modifiers, Syntactic Categories of PIE, Lexical Entries, Syntactic Developments from PIE to the Dialects の7章から成り、印欧基語のシンタクスと各語派におけるその発達を研究したもので、スラヴ語のシンタクスの研究にも参考となるところが少なくない。なお古代印欧語における中動から受動への発達については Frank Parker, Language change and the passive voice, Language, Vol. 52, No. 2, 1976, p. 449 の補説を参照。